

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	徳森利弘
自己評価作成日	30年 11月 10日

<p>【事業所理念】 ここにはぬくりもりがあり喜びがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害への備え ・避難訓練の実施 ・台風水害により実際に断水を経験。給水設備の現状把握ができ強化すべきポイントが見えた。 ・今後、予算も含めて検討していきたい。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設5年目を迎える事業所は、テラスから高校のグラウンドや海を一望できる住宅街にあり、海に沈む夕焼けなど、四季折々の風景や季節を感じることができる。敷地内は利用者の家族が育てた花を利用者等がプランターに植え替えるなど、事業所の景観に花を添えている。事業所内に地域交流室を設け、家族や地域住民、ボランティアの方の交流の場として幅広く活用されるなど、地域とのつながりができている。幅広い年齢層の職員同士が相手を思いやり助け合うなど、職員の関係は良好で、利用者との信頼関係も構築されている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	言葉にできない利用者さんに対しても日々接する事で思いに気付けるように努めている。	◎	/	◎	日々の生活の中で職員は利用者の思いやしたいことを聞き逃さないよう努めている。聞けた思いなどは、アセスメント表に追記するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の立場に立ち、どういう思いで過ごされているか常に考えている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	来所された方と、昔の事など一緒にお聞きする事で情報を知ることが出来ている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントやプランなど、日誌に挟み込み職員がいつでも見れるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスや介護ノートにより職員の気づきを書き込み本人の思いを汲み取れるように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	来所された方より、利用者さんの生活歴や興味のある事などお伺いしその都度アセスメントに記載している。	/	/	○	入居時に利用者や家族、入居前の事業所関係者から情報を得ている。自宅で花の水やりや俳句作りが日課・趣味の利用者には、継続してそれぞれの得意分野が活かせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	過剰な介護にならないように、危険に繋がる行為には注意を払っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	いつ、どんな時に不穏状態になる等、状態が把握できるよう観察し記録している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の生活での関わりは不安の要因とならない様に接し不安時には本人の落ち着く環境に設定し接している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	各利用者さんの体調や生活での変化に合わせて1日の過ごし方を把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の思いをくみ取り家族・職員と共に話し合いができています。	/	/	○	利用者や家族からの要望を聞き、毎月のミーティングで利用者の視点に立ち検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	プランを立てる上で「その人らしく」生活する為に意見を出し合うことが出来ている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容をケアプランに取り入れ、課題に対するサービスに繋げている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	アセスメントに基づきケアプラン、サービスに繋がれるよう努めている。	/	/	/	利用者が楽しく暮らせるような支援を大切にするため、担当職員を中心に利用者や家族の意向が反映された介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族などの意見を踏まえたアセスメントに基づき職員間でのアドバイスを参考にしながら作成している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	皆と同じように無理なく過ごせるよう考慮しその人らしく暮らせるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の面会の他、地域での行事に参加する事や来所のボランティア等も盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の業務日誌に介護計画書を入れており内容を把握しながら支援を行っている。	/	/	○	介護記録は業務日誌と経過観察記録表に記入するようになっている。職員は業務日誌と介護計画書を一緒にファイルして、毎日確認することができる。経過観察記録表には、ケアの実践状況の記入欄が設けられているが、活用するまでには至っていないため、業務に活かせるよう今後の取組みに期待したい。職員は業務日誌等に、利用者一人ひとりの日頃の言葉や表情等について記録している。職員の気づきやアイデア等は、介護ノートに記録し共有に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の業務日誌には介護計画書に基づいたサービスを行っているか確認しながら体調の変化を見落とさないよう職員での意見交換を行っている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	業務日誌、経過観察記録表に個別に身体状況やその日にあった行動や言動を記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	大事な気づきやアイデア等、介護ノートに記載してチェックしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月のカンファレンス、3ヶ月のモニタリングによりプランの見直しを行っている。	/	/	○	3か月毎にモニタリングを行い見直すようにしている。毎月ミーティングで利用者の様子を確認しており、変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カンファレンスにより、変化がないか現状のサービス内容でよいか確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合や受診、入院等あった場合には見直しを行い計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のカンファレンスで話し合いを行っているが緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	/	/	○	毎月のカンファレンスで課題解決のための話し合いを行っている。参加できなかった職員には、議事録を回覧し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	カンファレンスに於いて各担当者の提案に基づき日頃、感じている意見交換が攻撃的な言葉を使用せず穏やかな雰囲気の中積極的に行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議予定日は早くから知らされており夜勤者以外は参加できるように工夫されている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	話し合った内容を細かく記載し回覧され確認を行っている。他ユニットにも回覧している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	共有すべき内容は介護ノートに記載し情報伝達を行っている。ノートにはサインし介護統一に努めている。	/	/	○	業務日誌や申し送りノートを出勤時に必ず確認し、職員全員が情報を共有できるように努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日中の申し送りは朝夕と行っているが伝達できない職員には介護ノートを確認し把握に努めている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛けし、体調や気分によりその日の希望に添えられるよう努めている。	/	/	/	テレビや新聞、俳句等、利用者それぞれがしたいことを、日々の暮らしの中で自己決定できるよう支援している。俳句作りをする利用者に声をかけると、「昔から俳句が好きでな」と照れ笑いされながら応じていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	無理強いせず、本人の意向を確認し支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人一人声かけし、個人の能力に応じた支援を行えるように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事時間が掛かる方や各個人に合わせたペースで無理のない支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しみがある、やりがいのある生活が出来るように支援している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人に寄り添い思いをくみ取れるよう日々の観察を行い意向に沿った支援に心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や研修報告を聞くことで学ぶ事が出来ている。人生の先輩を敬いその人らしく生活していただけるよう考慮している。	◎	◎	○	職員は研修に参加し人権や尊厳について学んでおり、プライバシーに関わる部分や大切な話は居室で話をしたり、トイレ誘導等の際はさりげない声かけに努めるなど、細心の注意を払い対応している。居室入室時にはノックや声かけを欠かさないようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大きな声を出さず行動を見守り、危険な事に繋がる場合は声掛けし対処している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者さんに嫌な思いをさせないよう、周りに気を配りながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	扉をノックしたり、声かけして居室に出入りするよう配慮を行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体で守秘義務遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんにお手伝いをさせていただいたり、教えてもらったりしてお互い「ありがとう」と感謝している。	/	/	/	利用者同士の話が合わないときは、職員が仲介役となり和やかな雰囲気となるよう支援している。食事中に隣の利用者にメニューの説明をしている利用者の姿もあるなど、利用者同士支え合って良い関係が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者さん同士の挨拶や声掛け合う所を見かけ、共に支え合って生活していることを感じる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	配席に注意し、誰もが嫌な思いをせず、良い関係で過ごせるよう日々支援している。トラブルや孤立がないよう観察を行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時には職員が間に入り対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ケアマネやご家族から情報収集してアセスメント表にて職員間で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族様からの情報は職員間でも共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	出身地での行事がある場合には、参加できるように配慮し、ドライブ時には利用者様の関係深い場所へ出かけている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には、他の方に気を遣わないでお話ができる様にお部屋に案内する等の環境づくりに努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	テラスが完備されており、利用者の希望に合わせて日光浴したり足湯したり、苗を植え、水やりなど好きなタイミングで出来るよう支援している。	○	○	○	重度の利用者を含め、海風を感じながらの散歩など日常に定着してきており、弁当を作って全員で外出することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の方々の高齢化が進み協力は得られないが外での挨拶や会話などの交流は行っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子にて他利用者と同様に外出している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	季節に応じて花見に出かけたり、同じ町内の学校の体育祭や文化祭などを見学したり出来るように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎日の状態を観察し変わった事は、申し送りで伝え、個別の記録に記入し情報共有、相談しながら良いケアができる様に努めている。	/	/	/	平行棒や廊下で歩く練習を行ったり、車いすを自走する利用者もいるなど、職員は温かい眼差しで、利用者が自分で取り組む姿を見守りながら支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の体操やレクリエーションに参加していただき身体を動かして筋力維持に努め、歩行訓練やお手伝いなどの日常生活動作で維持、向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人が出来る事は、見守りにて行って頂いている。できそうなことがあれば一緒に行ったり一部介助したりしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家族様からの情報やアセスメントの情報は職員で共有できている。くもん学習療法にも3名取り組みが出来ている。	/	/	/	食事前の「いただきます」を当番の方が嬉しそうに言っている姿を窺うことができた。洗濯物たたみやおしぼり巻きなど、日々の暮らしの中で自然と役割ができ、それぞれできることに取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お手伝いでやりがいを持って頂き、レクリエーションやパズルぬり絵等個人にあった楽しみを持って頂けるように支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の文化祭に作品を出展し見学に行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	衣類は本人が選んだり、一緒に選んだりしている。	/	/	/	服装の汚れ等気づいた場合は、さりげない声かけをし着替えを手伝うなど支援に努めている。重度の利用者を含め、訪問理容を利用し、ヘアスタイルや毛染めなど自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	持ち物、衣類などは家族様からの持ち込みがあったり、散髪する日をいつにするか相談したりしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の意見を尊重しながらその時の季節にあったものを選んで頂けるよう支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	職員と一緒に衣替えをしたり、外出時にはお洒落な服やバックを選んで頂けるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	毎朝起床時に整容の乱れを直し、汚れ等はその都度さりげなく声かけをしながら個別に対応している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	2ヶ月に1回のペースで美容店の方に来て頂いている。毛染をされる方もいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時には顔の清拭、整容し衣類交換し清潔保持に努めている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は日常生活の基本であり一連の行為を共に行うことの大切さは理解している。	/	/	/	献立は法人の栄養士が立てたものを事業所にアレンジし、調理担当職員が調理している。朝食と土・日は調理担当職員以外が調理している。食材は地元の八百屋や肉屋に発注し届けてもらっているが、お裾分けの旬の食材が届き食卓に提供されることもある。おやつ作りの材料を職員と一緒に買い出しに行ったり、食後には洗い物をする利用者もいる。利用者の嚥下状態に合わせてトロミをつけたり、ミキサー食や一口大にしたり、お箸で食べにくい利用者には専用のスプーンやフォークを使うなど工夫した支援に努めている。職員も同じテーブルに座り、和やかな雰囲気の中サポートしながら一緒に食事している。重度の利用者を含め、常に調理の音や匂いがわかるようになっており、献立もわかるよう説明している。献立は利用者がバランスの良い栄養が摂れるよう話し合いをする機会を設けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	メニューは管理栄養士が考え調理師が作っている。キッチンには段差があり危険な為行っていない。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食器拭き等出来る所は声掛けし手伝って頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメント表やカンファレンス時などに情報を共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーなどを踏まえ旬の食材を取り入れ季節感を感じてもらえるようにしている。(つくしや筍など)	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	嚥下や咀嚼状況に応じてキザミ食やミキサー食にで対応している。必要時トロミを加えたりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者様に合わせてスプーンやお皿を変更し自立して食べて頂けるよう支援している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も同じテーブルに座り、目配りしながら個々のペースにあった食事ができる様に支援している。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	レクリエーション時に料理を話題にしたり、厨房から聞こえてくる食材を切る音、調理中の臭いがわかるようになっている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎回、食事量や水分量を記録に落としている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	少しでも摂取して頂けるように食事形態ではキザミ食やミキサー食にしたり水分ではトロミをつけたりと工夫している。エンシュアなども提供している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	法人内の栄養士が日々の献立を作成し、それに応じたメニューを提供している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日布巾やまな板をハイターにつけて除菌している。食材の鮮度に留意し周辺の清潔保持を心掛けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	1日3回の口腔ケアに努めている。拒否がある利用者に対しては声掛けやタイミングを見て行っている。	/	/	/	毎食後口腔ケアを行い状況を確認している。職員は口腔ケアの必要性について研修で学んでおり、利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援に努めている。痛みが出たり、義歯の不具合が生じた時は歯科往診を依頼している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯を使用している利用者や自分の歯の利用者それぞれに把握できている。毎回の口腔ケア時に確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等に参加し口腔ケアについて勉強している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日清潔を保つために、夜間は義歯を外して頂き、週に2回ポリドント洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できる所は利用者にして頂き、一緒に清潔保持に努めている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医師と連携を図りながら、必要に応じて受診をや往診にも来て頂いている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解できている。	/	/	/	できるだけトイレで排泄できるように支援している。布パンツやリハビリパンツ、パッド使用など、その必要性について話し合い利用者の状況に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、職員は排便チェック表を確認して排便コントロールを行っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者の排泄パターンによりトイレ誘導、声かけの時間をずらしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調などにあわせて、その時に合った方法で支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	カンファレンスや申し送りなどで、相談報告している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレに行かれた時間、有無をしっかりと記録し、少しでもトイレでの排泄ができる様に支援している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	意思疎通の困難な方にはカンファレンス等で話し合い、ご家族様にも相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	昼用、夜用と使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	むせ込み等がある場合にはトロミを使用し、お茶が進まない方には、本人の好みの飲み物を家族様と相談し提供している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴日は一応決まっているが、2階には一般個浴が設置してあり個別支援する事もできる。	◎	/	○	週2回の入浴が基本であるが、毎日や午前・午後どちらでも入浴できるなど臨機応変な対応をしている。湯温や浸かる時間なども、利用者の好みに合わせた支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人の体調にあわせて入浴している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けしながらできる所はして頂いている。見守り声かけは随時行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を別日にしたり、時間をずらして声掛けしたり工夫している。また、入浴されない時には全身清拭や足浴にて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝、バイタル測定にて体調を確認している。その際に調子の悪そうな方がおられたら、入浴前にもう一度測定しスタッフと相談している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンが一目でわかるように、記録に落としている。	/	/	/	日中の活動量を増やしたり、夜眠れない利用者には足湯や温かい飲み物を飲んでもらうなど安眠できるよう工夫し、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中はなるべく活動して頂き、昼夜逆転しないように留意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中は、少しでも体を動かして頂けるように、レクリエーションや体操などを行っている。医師と相談しながら睡眠導入剤や安定剤を検討している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調に合わせて、1時間でも昼寝ができる様に支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、電話や手紙のやり取りができる様に支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話や手紙など、本人が出来ない部分での支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	各居室でお話ができる様に配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙などは、本人に手渡して音信が取れるように行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかける時には、家族にも理解協力をしてもらうとともに、電話などをして頂けるようお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人がお金を所持することと使う事の意味の大切さを理解して支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	必要物品や好みの買い物に出掛け、使う機会を日常的に作っていくようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	必要に応じて、日頃から職員が代理にて買い物をしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら、必要に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要時に、家族や利用者さんと相談し支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月、手紙を送る際に出納帳コピーを同封し家族様にも確認して頂いている。気になるところは確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出や歩行練習など、様々な状況ニーズに合わせて支援させていただいている。思いが汲みとれる様に家族様との情報交換など大切にしている。	◎	/	○	外食や外泊など急な外出や旅行など、家族と相談しながら柔軟に対応できるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にはパンフレットやひだまり新聞を置いており誰でも持って帰って頂けるようにしている。玄関には意見箱も設置している。ベンチも設置している。	◎	◎	○	玄関には職員紹介ボードや利用者と職員が共同で作ったちぎり絵が飾られているなど、ゆったりとした温かい雰囲気にも開放感がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングの壁には月ごとの季節にあった壁画を飾っている。前月の写真や新聞を飾ることで利用者さんも見たい時に見に行けるようになっている。利用者さんの作品も掲示させていただいている。	◎	○	○	日差しが差し込み明るく落ち着いた雰囲気のリビングと食堂には、紅葉を飾る等、季節を感じられる工夫をしている。利用者の作った俳句、イベント時の写真や地域の方が撮った写真などが飾られている。利用者はソファでくつろいだり、ことわざクイズを楽しんだり、思い思いの場所でゆったりとした時間を過ごせるような空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、晩掃除をしている。消臭スプレーや換気等を必要に応じて行っている。年に2回大掃除をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	調理場が開放的になっており、包丁で切る音や食材の臭いが伝わりやすくなっている。天候のよい日は窓を開けることで外の様々な音を聞いたり目で見れたりしている。クリスマスツリーや笹飾りも一緒に準備して飾っている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	他者との関わりを大事にしなが、トラブルになりそうな時等は表情を見たり声をかけたりして不快な思いにならないよう支援している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共用空間との間に扉があり、その都度介助に入る際には見えないように配慮しながら行っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	以前から使用していた、布団やテレビ、家具等を持ってきていただき使用していただいている。	◎	/	○	使い慣れたたんすやテレビ、家族の写真、位牌等、馴染みの物が持ち込まれ、壁には利用者の作った季節の花の作品などが飾られているなど、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	洗濯たみや台拭き、掃除などで利用者に応じて出来ることを手伝っていただいている。また、新聞読まれたり、新聞折や広告でゴミ箱折りをされたりと出来ることを見つけやすいと感じていただいている。	/	/	○	利用者が歩行でも車いすでも移動しやすいよう廊下はきれいに片付けられ、トイレ等には手すりを取り付けられているなど、利用者が安全で自立した生活ができるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレにはトイレと大きく表示し分かるようにしている。必要な時や利用者さんの訴えに応じてその都度対応している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌は目に付くところに置いてあり、いつでも手に取ることができるようにしている。他の物などは、利用者様の訴え時などに渡している。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ミーティングでの研修や外部での研修時に勉強し理解している。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解し共有している。玄関の施錠はされておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	必要な時は家族様にお伝えして理解して頂いている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には人が通ると鳴るセンサーが付いており日中は鍵をかけずに過ごしている。地域の方とも交流する事で顔を覚えて頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別情報シートを作り、いつでも見れるようになっており把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝、健康チェックを行い記録している。普段と数値が違う場合には申し送りしたり記録に落としている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも不安に思った事は往診時や訪問看護時に相談している。電話での相談もさせていただいている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医と連携を図りながら、本人や家族様が希望する病院へ受診している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	納得がいくまで何度も話し合い、希望に添えられるように対応をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	本人様や家族様と情報交換を密に行い今後どのような対応をしていくか検討している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	アセスメント表や口頭での説明にて少しでも不安が軽減できるように支援している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	お見舞いへ行かせて頂いたり、地域連携室に電話したり、出向いたりして情報交換ができる様に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	地域連携室とのやり取りを特に大切にしている。病院へ受診に行った際には挨拶を行い関係づくりに努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に1回訪問看護、2週間に1回主治医に往診に来て頂いている。利用者の体調の変化や、気になるところは相談し確認して頂いたり助言を頂いたりしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも主治医と連絡がとれるような体制である。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックを行い、状態変化に少しでも早く気付けるようにしている。普段と違うところがあれば、ノートや記録用紙に記入しいつでも相談できるようにしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	職員同士で確認を行い、わからない時には薬剤師や薬手帳にて確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	声に出し、日付、朝昼夕を確認し名前を呼び本人確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	チェック表にて体調確認をしやすくしている。体調に変化が見られたら、上司に伝え医師に相談し指示を仰いでいる。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬に変更があった場合には、申し送りや連絡ノートにて確認、本人の経過観察を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの必要性が生じた場合における対応指針について説明し同意を得ている。	/	/	/	利用者や家族の意向を確認し、主治医を中心に話し合いを進めながら、看取り指針に基づき穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医師、家族スタッフと話し合い、支援内容方針を検討している。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	力量や体制が重度化や終末期を支えていけるか、スタッフと意見交換をしながら見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の力量について説明し、対応方針について理解、同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	最期までその人らしく生きる事を共通認識し、家族、医師、看護師、スタッフ間で連携を図りながら支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いや心情を受け止め、面会時にはコミュニケーションをとることに留意している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修に参加しミーティングで話し合い、嘔吐物や処理用物品は準備している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症のマニュアルは作成しているが、訓練はまだ行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	外部から得た情報を取り入れ、ミーティング等で話し合っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集をし、予防対策を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	細目に、手洗いうがいをしている。玄関先にも消毒液とマスクを設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には、日常の利用者様の様子をお話しをさせていただき、ご家族様の意向を確認している。	/	/	/	家族の面会は多く、調査時には利用者の夫が隣に座り食事を見守っている姿があった。家族会も発足し、会長・副会長・監査役が家族の中から選任され、家族主体の会となっている。12月にはクリスマス会を兼ねた家族会が盛大に行われる予定である。毎月「ひだまり新聞」を発行し、利用者の活動状況等日頃の様子や運営上の事柄も伝えるようにしているほか、職員の異動等は関わっていた利用者の家族には電話等でも連絡している。面会時には家族の意見や要望が聞けるよう、職員は声かけや雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	その場の雰囲気により、リビングでお話をして頂いたり、居室にてゆっくりとお話をして頂いている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などは、お便りにて案内をしたり、電話にて出席の確認なども行っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、各担当がご本人様の様子を記載し送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	必要と思われる情報は提供している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人やご家族様に対する思いを把握し、個々に合った支援を行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	定期的な通信の際に伝えている。異動については担当していたご家族には電話にて報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事には、都合により不参加の方もおられ全体の交流は難しいが、案内は続けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクが伴う問題が生じた場合は、ご家族に連絡し説明を行っている。本人にとっての今後の対策も話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会に来られた時にも、現状報告や本人の思いなどを面会の邪魔にならない程度にお話しをさせてもらっている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者、計画作成担当者が同席し不安や疑問点が残らないように説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ホームでの生活が困難となり退所となる場合は、ご家族様や医療機関と十分に話し合い納得を得ている。特別養護老人ホームへも希望者により申し込んでいる。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書に明記し説明した上での同意をいただいている。また、料金改定時には、書面にて改正点を記載し説明同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立前より地域に出向き、事業所の目的や役割等を説明し理解を得ている。	/	○	/	事業所内に地域交流室を設け、家族介護者の会を開催し、在宅で介護をしている家族や関係事業所の参加を得るなど、地域とのつながりもでき、参加者からは「息抜きになった」「こういうやり方があるのか」「一人じゃないんだ」とたくさんの言葉ももらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶に心掛け、地域の敬老会や運動会への行事に参加し交流を図っている。また、地域交流室「ひだまり」を通しての交流も図っている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩等を通して地域の方との顔なじみが増え避難訓練にも参加して頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	避難訓練への参加やボランティアの発表、学生の見学交流がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時や出勤時には挨拶や会話にも努めている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	ボランティアの方々の読み聞かせや音楽芸能発表など行って頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	個性を尊重してその人に合わせた対応をしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	生活文化祭に出展したり、敬老会での参加もできている。おやつの買い物にも出かけた。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者様以外の参加ができている。	○	/	△	運営推進会議は地域住民や家族、民生委員、婦人会長、地元高校の校長などの参加があるが、利用者の参加には至っていないため、参加者が固定しないよう今後の取組みに期待したい。会議では事業所の活動や利用者の状況、外部評価の取組みが報告され、サービスの要望や助言等ももらい、今後の運営に活かせるよう職員会議などで話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現状報告、活動報告、研修報告、ヒヤリハットの報告を中心とし身体拘束委員会も開催している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議の最期に質疑応答を行い、納得のいくよう説明している。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎週定期的に最終火曜日の14時からと決め協力していただいている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	大洲市へもファックスで報告。職員も議事録を閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念が利用者ご家族、地域の方や関係機関にも感じていただけるよう実践に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や地域交流室、パンフレットに掲示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	南予地区研修、法人内研修、認知症研修などに全員参加を目標とし研修の成果をカンファレンスにおいて発表している。	/	/	/	代表者は事業所に来所し、職員に「これはどうなった？」「どうした方がいい？」と問いかけるなど、常に職員や事業所のことを気にかけており、働きやすい職場環境づくりに取り組み、職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	月1回のミーティングにおいてテーマを決め資料作成し発表する事でスキルアップを図っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	全職員が目標管理シートを作成し自己評価及び上司による評価及び面接を行っている。チームの目標、個人の目標を持つことでやりがいにつながっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	南予地区研修や社内研修、グループホームでの研修を実施することで意識の高揚スキルアップに努めている。市のグループホーム連絡会に出席する事でネットワークづくりができています。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者が必要に応じ面接をする事で職場の職員の気持ちを聞きだしている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年間研修などを通し虐待防止について学び、カンファレンスの場にて検討理解を求めている。	/	/	/	定期的に研修会を実施し、職員は不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等について理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎朝、夕の申し送り時に利用者一人一人に合ったケアについて話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や適切なケアについて研修等を通して理解し、不適切な行為には本人と話し合ってから再発防止に努めている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とのコミュニケーションを密にして疲労やストレスをいち早く察知できるように努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修や日常の業務において全職員が正しく理解できるように努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	カンファレンスやミーティングの場で利用者の具体的な事例に基づき話し合っている。運営推進会議のメンバーで身体拘束適正化委員会を設置し検討している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	管理者、リーダーを中心として拘束をしない様な取り組み工夫を提案してご家族に理解して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を通して制度についての理解を深めて受講したスタッフよりミーティングの場で資料を用いて周知している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対応が必要な利用者に対してはご家族と相談しパンフレット等にて説明ができるよう体制を整えている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	後見人制度の利用者も1名いて、密に面会や連絡もある。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアル作成できていない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員ではないが本部での消防署の講習やAED講習などに参加して身につける様に努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	朝夕のミーティングで報告しヒヤリハット記録を閲覧し周知して再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアカンファレンスの場で毎月話し合い検討しており、スタッフの周知を図っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはないが年に2回、第三者苦情処理委員会を行っており外部委員の意見も含め会議録に落とし参考にして対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在、苦情はないが苦情対応一覧を基に発生時には、対応ができる体制となっている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を基に速やかに家族への内容の報告とスタッフに対策の徹底を図る事で繰り返さないように対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	毎月1回介護相談員が2名来訪され利用者から個別にお話しをされている。	/	/	○	利用者からは日常会話の中や介護相談員の訪問時に要望などを聞くことができている。家族からは面会時や運営推進会議、家族会などで意見を聞くことができている。野菜作りの得意な家族より畑作業のアドバイスを受けたこともあった。管理者はケアのあり方などについて、職員とミーティングやカンファレンスで意見交換をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に順番に家族に参加してもらい、意見や要望を伝えられる場を設けている。また、家族会でも交流と共に話し合う機会を作っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関の入り口に意見箱を設置し、家族の方や地域の方に意見を求めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者と連携を取りながら適宜話を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日々のミーティングや月1回のケアカンファレンスの場で意見交換を重ねて徹底を図っている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム 春の風

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービスの評価から課題をスタッフ全員で周知ミーティングやカンファレンスなどで取り組みを行っている。	/	/	/	運営推進会議で評価結果や目標達成計画を報告しているが、参加者に理解してもらえていないため、取り組みのモニターを依頼するなど今後の工夫に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価結果を基に、現状の把握と課題へ取り組み内容を明確化し対応している。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて、実現可能な具体的行動をとっている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバーに評価結果を報告している。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画や成果はケアカンファレンスや運営推進会議などで報告して周知している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害マニュアルを作成し、避難訓練の時さまざまな想定で実施している。	/	/	/	年6回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。西日本豪雨の経験から災害時の備えの必要性を強く感じており、地域の方にも参加の呼びかけを行って、豪雨災害支援の取り組みに関するビデオ上映会を開催し、地域との連携をより強固にするなど、利用者等の安全確保に万全を期している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者にて点検し、非常用食料については、賞味期限の確認を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	2ヶ月に1回避難訓練の際に消防署員や近隣住民にも参加していただき協力体制を整えている。	○	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	原子力災害の避難先として別の市町村となる他事業所に協力要請を行い話し合いの場を設けている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	法人全体の広報誌や事業所内の新聞(チラシ)を作成し玄関に掲示したり、家族や地域住民に対して配布するなど広報活動を行っている。	/	/	/	事業所で家族介護者の会を開催し、在宅で介護をしている家族の不安や困りごとの相談など、相談者との架け橋となるよう取り組んでいるが、地域の方に幅広く活用されていない感があるため、今後の取り組みに期待したい。小・中・高校の運動会に参加し地域住民と交流を深めたり、敬老会や文化祭への作品出展など、地域とのイベントを共同で行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	在宅支援センターと連携しながら介護者の会も発足した。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域交流室を活用してボランティアの発表やイベント、会議など使い方は自由に開放している。小、中、高校の生徒との交流の場としても活用している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	インターンシップや福祉体験の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の敬老会や文化祭への作品を出展したり小、中、高校の運動会に参加するなど地域のイベントに出向いている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	30年 11月 10日

<p>【事業所理念】 ここには ぬくもりがあり 喜びがあり 笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・運営推進会議の参加者は、開設当初からあまり変わっておらず、2ヶ月に1回実施している事も知らないご家族様がおられた。参加していただくご家族様を順番にご案内したり、ひだまり新聞にも実施の様子を掲載する等し、まずは知っていただけるよう努めた。地域の参加メンバーも、高校の校長先生・保育園の園長先生にもご都合のいい時にご協力いただき、新しい視点の意見交換や日常の交流に役立っている。今までこちらからのご案内ができておらず、参加した事がなかったご家族に参加して頂くことにより、グループホーム運営に興味を持っていただけるような機会となっている。 ・当法人の在宅介護支援センター介護支援専門員を中心とし、在宅で介護されているご家族を対象とした「家族介護者の会」発足。グループホームスタッフも参加しながら、認知症介護のポイントをお伝えしたり負の感情の傾聴・共感できる場づくりに努めたりしている。先の見えない在宅介護の精神的不安を受容しながら「一人ではない」という事に気付いていただけるような前向きな集いとなっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設5年目を迎える事業所は、テラスから高校のグラウンドや海を一望できる住宅街にあり、海に沈む夕焼けなど、四季折々の風景や季節を感じることができる。敷地内は利用者の家族が育てた花を利用者等がプランターに植え替えるなど、事業所の景観に花を添えている。事業所内に地域交流室を設け、家族や地域住民、ボランティアの方の交流の場として幅広く活用されるなど、地域とのつながりができている。幅広い年齢層の職員同士が相手を思いやり助け合うなど、職員の関係は良好で、利用者との信頼関係も構築されている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	今まで慣れ親しんできた物や生活のこだわりなどを把握しながら接するよう努めている。また、行動から読み取れる思いにも目を向けながら希望や意向の把握に努めている。	◎	/	◎	日々の生活の中で職員は利用者の思いやしたいことを聞き逃さないよう努めている。聞けた思いなどは、アセスメント表に追記するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族や面会に来られる方からも情報収集し、参考にさせていただいている。行動から読み取れる思いにも気を配って支援させていただいている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族や面会に来ていただける方と積極的にコミュニケーションをとらせていただき、「入居者の思い」をリアルに想像しながらケアの参考にさせていただいている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居者との関わりの中で知り得た情報や共有化したいことは記録にしている。また、申し送り時に口頭でスタッフに伝えることでよりスムーズに生活支援に役立てることができる。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	言葉にできない方は表情やしぐさ等で思いや訴えが読み取れるように状態観察をしている。また、スタッフ間での情報共有に心掛けている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	愛着があるもの・こだわりのものが使用できるよう、ご家族にも協力していただいている。面会に来ていただいた友人や親せきの方からも情報収集ができるよう、積極的に話をさせていただいている。	/	/	○	入居時に利用者や家族、入居前の事業所関係者から情報を得ている。自宅で花の水やりや俳句作りが日課・趣味の利用者には、継続してそれぞれの得意分野が活かせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	個々のスタッフの観察力をいかし、情報の共有に努めている。できること・できないことの見極めをし、必要な支援ができるよう心掛けている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	入居者同士の人間関係や関わり方、精神状態の変化にも留意しながら支援している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	いい状態になった時も不安定になった時も、何が要因なのかをスタッフ間で話し合いながら、次の支援に役立てられるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間のおおまかな様子がわかる入居者状況一覧表を活用し、日々の変化が一目でわかるようにしている。また、状態の詳細は個人記録表に記入する事とし、支援方法の改善に役立っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	グループホームでの様子だけに限らず、ご家族や面会に来てくださる方からも積極的に情報収集し、これまでの生活の様子や入居者の人柄に目を向けながら支援できるよう努めている。	/	/	○	利用者や家族からの要望を聞き、毎月のミーティングで利用者の視点に立ち検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の状態観察やチームで収集した情報をもとに「必要な支援」を分析しながらケアカンファレンスや日々のミーティングで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	その都度の対応となっている為、PDCAサイクルが計画的に活用できるようにしたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	入居者の安心した生活環境に近づけられるよう、日々模索している。入居者の思いや意向が反映できるよう努力している。	/	/	/	利用者が楽しく暮らせるような支援を大切にするため、担当職員を中心に利用者や家族の意向が反映された介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	往診時や面会時に時間を設け、それぞれのご意見やアイデアを伺うことで介護計画に反映させていただいている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の入居者に対してもご家族や面会に来てくださった方から積極的に情報を伺うことで、入居者の望む暮らしに近づけるよう支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族には協力していただく内容になっているが、地域の方の協力体制が盛り込まれた事例は今までにはない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月ケアカンファレンスを行い、スタッフ間での情報共有・計画内容・支援上の注意事項が把握できるようにしている。	/	/	○	介護記録は業務日誌と経過観察記録表に記入するようになっている。職員は業務日誌と介護計画書を一緒にファイルして、毎日確認することができる。経過観察記録表には、ケアの実践状況の記入欄が設けられているが、活用するまでには至っていないため、業務に活かせるよう今後の取組みに期待したい。職員は業務日誌等に、利用者一人ひとりの日頃の言葉や表情等について記録している。職員の気づきやアイデア等は、介護ノートに記録し共有に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	毎日モニタリングをする記録項目があるわけではないが、日々の記録とカンファレンスをもとにケアプランの評価をモニタリングとして実施している。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	入居者状況一覧・経過観察記録・個別記録を毎日記入し、状況がすぐにわかるようになっている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	入居者状況一覧・個別記録を記載しており、スタッフの気づきやケアを行ってどうであったか等の詳細を書き記すことにより、その場になかったスタッフにも状況がわかるよう記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	/	/	○	3か月毎にモニタリングを行い見直すようになっている。毎月ミーティングで利用者の様子を確認しており、変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	必要な場合は見直しを行い、現状に合った計画を作成している。また、各担当者・計画作成担当者が確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、現状に合った計画を新たに作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のケアカンファレンス・毎日のミーティング(申し送り)で、課題を解決するための話し合いを日常的に行っている。	/	/	○	毎月のカンファレンスで課題解決のための話し合いを行っている。参加できなかった職員には、議事録を回覧し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	スタッフ一人一人が発言できる場を会議中は設けている。発言に対しての意見交換ができるよう発言する順番は特に気を付けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	側近での目配りが常に必要な入居者の状態を考慮し、一人でも多くのスタッフが参加しやすいよう、2Fフロアで会議を行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	スタッフ全員で情報が共有できるようスタッフミーティングの会議録を作成し、参加できなかった方にも回覧できるようになっている。また、すぐに共有しておかなければならない件については口頭でお伝える事としている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	情報伝達すべき内容は毎日のミーティングで申し送りをしている。また、伝達する内容に対して時間がある場合は申し送りノートを活用している。	/	/	○	業務日誌や申し送りノートを出勤時に必ず確認し、職員全員が情報を共有できるように努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようになっている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日のミーティングで申し送りを徹底している。また、業務日誌もあり、出勤時には必ず目を通すようになっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々の入居者の意向・その日の心身の状態にあった支援をしている。	/	/	/	テレビや新聞、俳句等、利用者それぞれがしたいことを、日々の暮らしの中で自己決定できるよう支援している。俳句作りをする利用者に声をかけると、「昔から俳句が好きでな」と照れ笑いされながら応じていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な限り、自己選択・自己決定できるような声かけの工夫を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己選択・自己決定できる力には個人差がある為、その時々入居者の状態に合わせた声かけの工夫をしながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床・就寝・食事・排泄・入浴の時間やタイミングは、日によっても違い、個別でも違う為、状態観察・様子観察を行いながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常生活でも体操やレクリエーションを多く取り入れることで刺激のある環境を提供し、笑いのある雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思の疎通が困難な入居者も表情の変化やしぐさで、不快感や苦痛が軽減できるよう支援している。感情表現が乏しくなった入居者は、ご家族面会のタイミングで笑顔がなかなか見られない場合が多い為、日常生活でいい表情をされた時の写真を撮影するようにし、ご家族にも伝えるように工夫している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ご本人の意思を尊重し、排泄の失敗をされても、傷つけるようなことのないような「言葉選び」に心掛けている。	◎	◎	○	職員は研修に参加し人権や尊厳について学んでおり、プライバシーに関わる部分や大切な話は居室で話をしたり、トイレ誘導等の際はさりげない声かけに努めるなど、細心の注意を払い対応している。居室入室時にはノックや声かけを欠かさないようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	配慮しながら行っているが、難聴がある入居者が多く、排泄の声かけは目立つことが多い。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄の失敗は特に嫌な気持ちが残らないような対応を行っている。入浴時には羞恥心を考慮し、洗身時でもタオルをかける等の配慮を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はノック・入居者に一声かけての入室に心掛けている。見えない方や聞こえない方は肩に触れての声かけを行うようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体でも研修を徹底しており、スタッフ教育がされている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	できることへの支援を重視しており、お手伝いをいただいた時の感謝の気持ちはよく伝えるようにしている。食器洗い・台拭き・洗濯物干し・洗濯たたみ・おしぼり巻き・掃除手伝い・歌を歌って聴かせる等、個別にいただける事が、私たちスタッフも助かっている。	/	/	/	利用者同士の話が合わないときは、職員が仲介役となり和やかな雰囲気となるよう支援している。食事中に隣の利用者にメニューの説明をしている利用者の姿もあるなど、利用者同士支え合って良い関係が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士の人間関係や関わり方にも留意し、見守っている。優しく声をかけられたり食べこぼしを拾ってあげたりされる姿をよく見かける。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者同士の人間関係や関わり方にも留意しながら、トラブルになったり孤立したりしないような配慮をしている。入居者のその時々心身の状態に合わせ、柔軟に対応できるスタッフが多い。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際には速やかに対応し、再発防止に努めている。孤立する事のないように留意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居者の日常会話はもちろんの事、ご家族や面会に来てくださった親せき・友人からも情報収集している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居者やご家族・面会の方から情報を収集し、馴染みの場所までドライブに行ったり散歩に行ったりすることもある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	外出することが難しくなった場合は、知人や友人に面会に来ていただけるように声かけをし、関係性が継続できるようにしている。外出できる場合はご家族に外出協力を依頼する場合もある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には居室に案内する事で過ごしやすい空間づくりに努めている。また、お茶やコーヒーをお出しし、くつろげるような環境にできるよう努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	気候のいい日には近くの海や施設周辺を散歩し、気分転換を図っている。真夏や真冬はなかなか散歩ができない為、ドライブを計画したり日光浴や外気浴で気分転換できたりする機会を設けている。	○	○	○	重度の利用者を含め、海風を感じながらの散歩など日常に定着してきており、弁当を作って全員で外出することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方やボランティアの方に訪問していただくことはあるが、外出支援はスタッフボランティアがご家族・親せきのみである。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	主には散歩外出が多い。法人のリフト車を借りて重度の方も初詣に行ったり、紅葉ドライブに行ったりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の生まれた場所や生活していた場所にはご家族と出かけられるように協力の依頼をしている。生活文化祭に参加した時には地域の方が車いすを押してくださる等の協力を得られるようになっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者一人一人、その時々々の状態変化を観察し、BPSDを引き起こす要因となっているものを見つけ出せるよう、スタッフ間の情報の共有に努めている。また、いち早く解決できるように様々なアイデアをスタッフ間で出し合っている。	/	/	/	平行棒や廊下で歩く練習を行ったり、車いすを自走する利用者もいるなど、職員は温かい眼差しで、利用者が自分で取り組む姿を見守りながら支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の体操やレクリエーションに参加していただくことで、機能維持に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	口腔ケアは、うがい・入れ歯磨き等、できることはしていただくようにしている。また、できることへの支援を行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	洗濯たたみや食器洗いなど、できることへの支援に努め、役割が持てるようにしている。	/	/	/	食事前の「いただきます」を当番の方が嬉しそうに言っている姿を窺うことができた。洗濯物たたみやおしぼり巻きなど、日々の暮らしの中で自然と役割ができ、それぞれできることに取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	その時々でできることが違う為、状態を把握しながら支援している。レクリエーションや体操の参加を促し、入居者それぞれができるようにサポートする事で楽しみごとや張り合いが持てるようにしている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域文化祭に入居者の作品を出展し、地域の一員として参加できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎朝、起床時に身だしなみが整えられるように支援している。一人一人のこだわりは把握している。	/	/	/	服装の汚れ等気づいた場合は、さりげない声かけをし着替えを手伝うなど支援に努めている。重度の利用者を含め、訪問理容を利用し、ヘアスタイルや毛染めなど自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個人の持ち物は、なるべく入居前に使用していた愛着のあるものを持参していただくようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入居者の思うような支援になるように努力している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	自己決定できる入居者は相談している。必要時にはご家族に相談することもある。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないよう注意しながら支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの理美容店がある方は、ご家族の協力で連れて行っていただくようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	行けなくなった入居者は、理美容師さんにグループホームまで来ていただくようお願いしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は一番のお楽しみであり、元気の源になることを理解している。	/	/	/	献立は法人の栄養士が立てたものを事業所にアレンジし、調理担当職員が調理している。朝食と土・日は調理担当職員以外が調理している。食材は地元の八百屋や肉屋に発注し届けてもらっているが、お裾分けの旬の食材が届き食卓に提供されることもある。おやつ作りの材料を職員と一緒に買い出しに行ったり、食後には洗い物をする利用者もいる。利用者の嚥下状態に合わせてロミをつけたり、ミキサー食や一口大にしたり、お箸で食べにくい利用者には専用のスプーンやフォークを使うなど工夫した支援に努めている。職員も同じテーブルに座り、和やかな雰囲気の中サポートしながら一緒に食事している。重度の利用者を含め、常に調理の音や匂いがわかるようになっており、献立もわかるよう説明している。献立は利用者がバランスの良い栄養が摂れるよう話し合いをする機会を設けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立は、法人の栄養士が作ったものを参考にしている。食事作りは調理担当スタッフがおり、注文などもしていただけているが、入居者には四季折々のおやつ作りを企画し、作る楽しさを感じていただける場をつくっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	片づけを一緒にしていただくことで、達成感や自信につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの・アレルギーの有無は全スタッフが把握している。2F入居者はほとんど食べられる方が多い。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人の栄養士が考えた献立を参考にさせていただいている為、季節の食材が豊富で栄養バランスが取れている。高齢者向けにアレンジしている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	スチームコンベクションを設置し、なるべく形の残せる形で対応できるようにしている。徐々に普通食から刻み食・ミキサー食に変化させなければならない方が増えてきたが、彩りには気を付けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個別に使いやすいもの・使い慣れたものを使用していただくようにしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	スタッフが食事を一緒に食べることは少ないが、食事の状態変化や食べ方の混乱がないように配慮することに留意している。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態であっても会話を通して雰囲気づくりに努めている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	入居者の状態を見ながら、水分量や食事摂取量が確保できるように配慮している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分の種類を飽きないようにしてみたり、食事が少ない方には栄養ゼリーを提供したりと、さまざまな工夫をしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	法人の栄養士が考えた献立を参考にさせていただいている為、栄養バランスは取れている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理担当のスタッフを配置する事で、料理用具や食材等の衛生管理が日常的にできるようにしている。衛生管理がしにくい災害時にも衛生面の配慮ができ、とても助かった。スタッフにも教育・指導していただき、スキルアップが図れている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎に留意しながら口腔ケアの徹底を行っている。必要性・重要性を理解しており、口腔ケアの生活習慣がなかった入居者にも、声かけの工夫をしていくことで無理なく習慣化できるまでになった。	/	/	/	毎食後口腔ケアを行い状況を確認している。職員は口腔ケアの必要性について研修で学んでおり、利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援に努めている。痛みが出たり、義歯の不具合が生じた時は歯科往診を依頼している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に口腔ケアを行うことで義歯の状態や舌の状態、口内炎の状態もよく把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	二宮歯科医や西田歯科医より時々助言をいただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週2回、ポリドントをしている。また、毎食後の口腔ケアを徹底する事で、不具合は早期に対応できるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアは徹底して行えるようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口腔ケアを徹底する事で、不具合・口腔内の異常がある場合には早期に対応ができるようになっている。依頼をするとグループホームに歯科医が来てくださり、治療していただけるようになっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できる限りの方法を考え、立位が困難な状態になっても二人介助を徹底する事で安全にトイレ排泄が継続できるように支援している。できることへの支援を心がけている。	/	/	/	できるだけトイレで排泄できるように支援している。布パンツやリハビリパンツ、パッド使用など、その必要性について話し合い利用者の状況に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排便の有無は精神面に大きく影響することを理解している。毎日排便チェックをし、排便コントロールをしながら便秘にならないように努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間の入居者状況一覧表を活用する事で排泄の状態・回数・間隔などは一目でわかるようになっている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	立位が困難な状態になっても二人介助を徹底する事で安全にトイレ排泄が継続できるように支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	内服している薬で改善できるものはないか、主治医に相談し、改善した例がある。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	24時間の入居者状況一覧表を活用する事で排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導を行っている。また、体調の変化や不調を早めに察知することができるようになっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	○	紙パンツやパッドを使用する場合はご家族に相談の上、購入・使用させていただいている。ご本人の混乱にならないようなものに変更したり、その時々状態に合わせて種類を変更することがある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ご本人の混乱にならないようなものに変更したり、その時々状態に合わせて種類を変更することがある。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	キウイフルーツやバナナを取り入れたり、乳製品を毎日摂取していただくことで自然排便が促せるよう留意している。楽しみながら体操ができたりレクリエーションで体を動かせるようにするなど、工夫している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	1Fには大浴場・2Fには個室があり、その時々入居者の状態によって入浴が提供できるようになっているが、立位が取れなかったり浴槽がまたげなかったりと、個室で入浴できる方は少なくなっている。入浴日の目安は決まっているが、時間帯・長さ・温度などは個人の希望をスタッフが把握しており、快適に入浴できるよう配慮している。	◎	/	○	週2回の入浴が基本であるが、毎日や午前・午後どちらでも入浴できるなど臨機応変な対応をしている。湯温や浸かる時間なども、利用者の好みに合わせた支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	その時々個人の状態をスタッフが把握しており、快適に入浴できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自分でできることはしていただきながら、側近での見守りや声かけをすることで、混乱や不安なく入浴できるように支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけやタイミングを工夫する事で、拒否なくスムーズに入浴できるようになっている。拒否がある場合は、2Fの個室を利用することもあり、無理強いせずとも入浴支援が提供できる。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	24時間の入居者状況一覧をもとに、睡眠状態・バイタルの状態・近日の様子変化などを毎日申し送りし、状態を周知している。スタッフ間で状態を把握・相談しながら、入浴できる方・中止した方がいい方を検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	24時間の入居者状況一覧を記録している為、睡眠パターンが一目でわかるようになっている。また、覚醒状況・精神状態・排泄状態もわかるようになっている。	/	/	/	日中の活動量を増やしたり、夜眠れない利用者には足湯や温かい飲み物を飲んでもらうなど安眠できるよう工夫し、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動を充実させることで、夜間の安眠が図れるように工夫している。様々なケアのアプローチを重ね、夜眠れない原因をスタッフ間で検討している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	時間はかかるが、ケアの工夫や生活環境を工夫する事で、少なからず改善できることがある。他入居者が不眠になる程の悪影響がある場合、主治医・専門医への相談を行いながら総合的な支援を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個別に状態を見ながら、静養する時間・昼寝・休息が取れる時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族とのつながりを目的とし、入居者自らが電話できるよう支援している。また、手紙が書けるよう字の練習をしたり思いを言葉にする練習をしたりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	スタッフは心身の動きをよく観察しており、手紙が書けるタイミング・電話をかけたいタイミングを見計らって支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご希望があったときは電話できるように支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やハガキが書けない方は、かわりにスタッフがお便りを送ったり電話をさせていただいたり、つながりが継続できるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をしても支障のないご家族のタイミングを把握している。電話や手紙をくれるようお願いはしているが、決まったご家族ばかりで、やや消極的である。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金を所持する事・使うことの大切さは理解しているが、ご家族の希望もあり、入居者がお金を所持しているのは少数である。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	商店街のお菓子屋まで買い物に行くことがあるが、日常的ではない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	グループホーム入居者全員の安全を考慮しながらの買い物支援になる為、行く所はある程度限られた場所になっているが、行く場所は理解を示してくださる。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	「持っていたい」という入居者は、ご家族と相談しながらお金をもっていただいている。トラブルにならないように、ご家族理解の得られた金額を所持していただくようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	ご本人の希望や様子などをご家族に報告・相談している。入居者の中には個人で現金を持たれている方もいらっしゃる。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	希望により、個人預かり金としてGH金庫で預かり、管理している。毎月の請求書を送る際に出納帳のコピーを同封し、収支の詳細を確認していただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご本人の思いや意向が伺えた時には、こまめにご家族と連絡を取り、報告や相談を行っている。ご家族の協力が必要な時は、可能な範囲でご協力の依頼をすることもある。	◎	/	○	外食や外泊など急な外出や旅行など、家族と相談しながら柔軟に対応できるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物の周りには植え込みがあり、緑を多く取り入れている。スロープがあり、足の悪い方でも出入りがしやすくなっている。	◎	◎	○	玄関には職員紹介ボードや利用者と職員が共同で作ったちぎり絵が飾られているなど、ゆったりとした温かい雰囲気にも包まれ開放感がある。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	ベランダにはプランターを設置し花を植えたり、四季折々の壁画の飾りつけをしたりして、季節が感じられるような工夫をしている。異食行為がみられる入居者がいらつしやる為、基本的に共用の机の上には何も置かなくなった。	◎	○	○	日差しが差し込み明るく落ち着いた雰囲気のリビングと食堂には、紅葉を飾る等、季節を感じられる工夫をしている。利用者の作った俳句、イベント時の写真や地域の方が撮った写真などが飾られている。利用者はソファでくつろいだり、ことわざクイズを楽しんだり、思い思いの場所でゆったりとした時間を過ごすような空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、掃除や換気を行い、気持ちよく過ごしていただけるように心掛けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気候の良い日には窓を開けたり、季節によっては外気浴を楽しんでいただいたりしている。四季折々の花を飾ったり、壁画の工夫をしたり等、室内でも季節を感じられるような工夫をしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングではソファに一緒に座って会話を楽しんだりテレビを鑑賞したりされている。一日の中でも気の合う時間とそうでない時間とがあり、その都度の状態に応じてスタッフが配慮しながら過ごしていただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	それぞれスライド式のドアがある為、閉めていけば見ることはない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人が使い慣れた物や思い出のある物を持ってきてもらっており、居室でも居心地よく過ごしていただけるような環境になっている。	◎	/	○	使い慣れたたんすやテレビ、家族の写真、位牌等、馴染みの物が持ち込まれ、壁には利用者の作った季節の花の作品などが飾られているなど、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の入居者様について、都度スタッフ間で話し合い、安全で自立した生活を送っていただけるように、一人一人に合わせた配慮や工夫を行っている。	/	/	○	利用者が歩行でも車いすでも移動しやすいよう廊下はきれいに片付けられ、トイレ等には手すり取り付けられているなど、利用者が安全で自立した生活ができるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	都度、スタッフ間で情報交換し、入居者様の不穏や混乱を招かないような環境づくりに努めている。また、周辺症状が現れた場合の考えられる改善案を検討し合い、軽減できるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	危険行為の認識が難しく、異食等の症状がある入居者様がいらつしやる為、極力置いていない状態にあるが、入居者様の必要な時に必要なタイミングで提供できるように、入居者様の言動に留意しながら見守り・情報の共有をスタッフ間で行っている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	夜間帯以外は玄関・ユニットの入口は鍵をかけず自由に動けるようにしている。2階ユニットの入り口は階段に繋がっており危険が高い為、スタッフが手薄な時に帰宅願望が強く見られたり、不穏な状態が見られ、やむを得ない場合に鍵を使用することがある。GHに足を運んでいただける機会が多いご家族様や地域の方は「鍵をかけないケアの取り組み」に関してはよく理解していただいている。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解し共有している。玄関の施錠はされておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族には安全確保の為の対応など、話し合いをしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施設内は自由に過ごされている。玄関には感知式のセンサーを設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前のアセスメントシートやケアマネさんから情報をいただき、各スタッフが把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタル測定を行っている。身体状態の変化や異常を感じた時には記録にも残し、スタッフでの情報を共有し、早期発見に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事は主治医や訪問看護師に報告・連絡・相談し、指示を仰いでいる。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	定期的な往診は菊原先生にお願いしているが、ご本人やご家族が他の医療機関や専門医に受診を希望される場合は、スムーズに受診できるように支援している。主治医からの検査データや介護スタッフからの情報の提供をスムーズに行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医からの検査データや介護スタッフからの情報の提供を行うことで、診療がスムーズに進められるよう配慮している。また、介護スタッフからの情報を正確にお伝えする事で、専門医の助言や指示をいただけるように関係性の構築に努めている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診の必要性・必要な場合の通院の協力依頼・結果伝達はご本人・ご家族の合意の話し合いのもと、主治医・看護師・ご家族・介護スタッフが情報共有を行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	医療機関とは連絡を密に取りあい、必要と思われる情報提供は必ず行っている。入院時の入居者の混乱や不安が最小限にできるよう配慮している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には面会に行ったり地域連携室の相談員に連絡を取ったりし、状態の把握に努めている。また、適切な情報提供を行うことで環境の変化による混乱が最小限になるよう配慮している。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院の地域連携室相談員は名前を憶えていただいたり顔見知りになったりする程、必要時の連携は図らせていただいている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師が週に1回以上訪問していただいたり、必要時の相談にのっていただいたりしている。また、かかりつけ医の看護士とも連携を強化しており、スムーズに適切な診療が受けられるようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護師・主治医ともに24時間連絡が取れる体制をとっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	主治医・看護師への早めの相談を心がけており、入居者の事を気にかけていただけるような関係を築いている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の処方に変更があれば情報伝達をし、全スタッフが把握できるようにしている。また、臨時薬は特に注意し、服薬介助を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬を防げるよう、スタッフ二人での名前確認・内服確認を行っている。薬カレンダーを使用することで内服状況が一目でわかるように工夫している。また、内服後の薬袋を薬カレンダーに戻すことで、起床時間・服薬時間が個別で違っても、重複して内服される事がないようにしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	主治医・看護師とのよりよい関係を築く事で相談しやすい環境を作っている。また、薬の変更があった際は、その後の状態をFAXでやりとりし、入居者にとって必要な薬かどうかを見極めている。また、24時間の入居者状況一覧記録表を活用することで、排便の有無確認・薬の調整をスムーズに行えるようにしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	排便の有無確認・睡眠の状態・精神状態など、一目でわかるようにし、スムーズに情報の共有・情報提供が行えるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に変化がある場合には速やかにご家族に連絡をしている。また、今後考えられる変化や生活上の注意事項などをご家族と共有していくことで、認知症の進行や終末期への理解を深めている。	/	/	/	利用者と家族の意向を確認し、主治医を中心に話し合いを進めながら、看取り指針に基づき穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	入居者やご家族(入居者の代弁者として)の意向を伺い、スタッフ・主治医・協力医療機関での話し合いをしている。また、主治医からの助言を含めた上で、重度化・終末期の在り方についての方針をお互いに共有している。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	個々のスタッフの思いや不安を把握できるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族対象の説明会を開き、重度化や終末期の理解を深めるとともに、できること・できないことの確認をさせていただいた。看取り時期が近づいてきたら、ご家族の思いを再確認し、改めて個別にお話しさせていただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族・主治医・専門医・看護師・スタッフの連携を図りながら状態の変化を共有し、チームで支援できるような体制をとっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族とのより良い関係づくりに努め、家庭の事情や心情の理解、思いの共有ができるように関係性の構築に力を入れている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症は特に注意を払っており、定期的に学ぶ機会を設けている。また、予防対策・早期対応にも留意している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成しており、万が一発生した時には速やかに対応ができるように準備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	法人からの協力もあり、最新情報が入手できるようになっている。また、事業所のスタッフ家族からの情報にも留意し、学校関係で感染症が発生した情報が得られたら場合は特に注意を呼び掛けるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校や保育幼稚園からの情報も収集し、状況を見て施設見学や面会をお断りすることもある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時のうがい手洗い・手指消毒を徹底している。また、施設見学者や面会の方にも呼びかけを行っており「持ち込まない」工夫をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	お便りのやり取りや電話で情報の共有をし、ご家族にもご協力をお願いする事で一緒に支える関係づくりに力を入れている。ご家族の状況も考慮しながら、できる支援をさせていただいている。	/	/	/	家族の面会は多く、調査時には利用者の夫が隣に座り食事を見守っている姿があった。家族会も発足し、会長・副会長・監査役が家族の中から選任され、家族主体の会となっている。12月にはクリスマス会を兼ねた家族会が盛大に行われる予定である。毎月「ひだまり新聞」を発行し、利用者の活動状況等日頃の様子や運営上の事柄も伝えるようにしているほか、職員の異動等は関わっていた利用者の家族には電話等でも連絡している。面会時には家族の意見や要望が聞けるよう、職員は声かけや雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族がきやすい雰囲気づくりや居心地よく過ごせる環境や雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事やイベントにはご家族も参加していただけるように呼びかけ・案内を行っている。家族会もあり、家族会での催しが年2回以上ある。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、月初めに請求書にお便りを同封している。写真や広報誌も同封するなど、入居者の状態やグループホームの取り組みにも興味を持っていただけるよう努めている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族との信頼関係を気付くことで、思いや改善してほしい事などを言いやすい雰囲気づくりに気を付けている。また、ご家族の不安や知りたい事が共有でき、スタッフのアプローチで早期に改善できるよう努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症の理解・本人の行動心理症状への理解を得られるような働きかけを行いながら、入居者とご家族のより良い関係が持続できるような支援に心掛けている。在宅介護に行き詰ってグループホームご利用になったご家族の胸の内を傾聴・共感しながら、一緒にサポートしていただける関係を構築している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	広報誌や事業所新聞を活用し、情報を提供している。また、面会に来ていただいた方には直接お知らせすることで興味を持っていただけるようにしている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会催しが年2回はあり、ご家族同士で話ができる場を設けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	スタッフ同士での情報共有を密にし、起こり得るリスクや可能性を周知している。また、スタッフ間で話し合った対策や決め事はご家族にもお伝えしている。よりよいケアができるようにご家族にも相談にのっていただいている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	スタッフが積極的に情報の提供や相談を行うことで、ご家族からもご意見や思いなどを話していただけるようになってきている。面会時も、積極的に話することで「来てよかった」と思ってもらえるような環境づくりに力を入れている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時・解約時・内容変更時には不安のないように丁寧に説明する事を心がけている。また、不明な点がないように理解や納得が得られるように留意している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居については契約に基づくものとし、その可能性が出てきた段階で話し合いの場を持つこととしている。ご家族が納得された上での退居となっている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約・及び料金の改定時にはわかりやすく具体的に説明し、同意書をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を2か月に1回開催し、理解を深める機会を継続して行っている。また、地域の方にも広報誌や事業所新聞を活用し、事業所の目的や役割を示すことで理解を図っている。	/	○	/	事業所内に地域交流室を設け、家族介護者の会を開催し、在宅で介護をしている家族や関係事業所の参加を得るなど、地域とのつながりもでき、参加者からは「息抜きになった」「こういうやり方があるのか」「一人じゃないんだ」とたくさんの言葉ももらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶はもちろんの事、地域行事への積極的な参加を心がけている。地方祭には、入居者の作品を出展するなど、地域の一員として、参加させていただいている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	避難訓練に協力して下さる地域の方が少しずつ増えてきている。また、保育所・小・中学校・高校との交流を大切にすることで、運動会などの機会に声をかけて下さる地域の方々が増えてきた。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	マスメディアの影響で、地域の方は「福祉の仕事は忙しい」と思われているようで、気を遣っているようなところが見受けられるが、声をかけると来ていただける。学校とのつながりもあり、子供達も来ていただける。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	近所の方はスタッフの車を覚えておられ、「話したい」とわざわざ訪ねてくださる方もいらっしゃる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	避難訓練に参加して下さり、入居者の見守りや話し相手をして下さっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	長浜地方祭に出展する作品を3か月かけて入居者が作成。地域の一員として出展することで展示会に参加する楽しみができるよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	避難訓練時に消防署協力・防犯呼びかけ・入居者の単独外出の可能性などの情報交換に交番協力・小中学校や高校の体験学習や交流学習・インターンシップ協力により、関係を深める努力をしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2か月に1回参加していただいている。今年度より限定の家族ではなく、毎回違う家族に出席していただくことで理解を深められるようなアプローチを実施中。	○	/	△	運営推進会議は地域住民や家族、民生委員、婦人会長、地元高校の校長などの参加があるが、利用者の参加には至っていないため、参加者が固定しないよう今後の取組みに期待したい。会議では事業所の活動や利用者の状況、外部評価の取組みが報告され、サービスの要望や助言等ももらい、今後の運営に活かせるよう職員会議などで話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	半年に1回、報告させていただいている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方やご家族からのご意見は、ミーティングの際に報告し、スタッフにも周知している。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	早めの日程調整・参加呼びかけ案内をすることで、出席しやすい工夫をしている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	ご意見や変わったことがあれば公表しているが、毎回の議事録を公表しているわけではない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」の理念のもと、笑いのある毎日が送れるよう、また必要とされる存在として一人一人が安心して生活できるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関に入るとすぐ理念が見えるように掲げられている。また、わかりやすい理念となっている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内外の研修にみんなが参加できるようにするとともに、参加後の研修報告をスタッフにもらうことでスキルアップを目指している。	/	/	/	代表者は事業所に来所し、職員に「これはどうなった？」「どうした方がいい？」と問いかけるなど、常に職員や事業所のことを気にかけており、働きやすい職場環境づくりに取り組み、職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画的に行っているわけではないが、その時々スタッフの心身の状態を把握しながら、スキルアップへのアプローチを行っている(管理者・リーダー)	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	定期的に自己評価表や目標管理シートを行うことで、スタッフの個々の努力や実績を把握。職場環境や条件の整備をしていただいております。とてもいい条件(夜勤手当UPや介護処遇改善・産休育休制度など)で働けるようになっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今年度は西日本集中豪雨の影響もあり、参加できなくなった研修もあるが、グループワークでの同業者との交流をねらいとしてまんべんなく全スタッフが参加できるように配慮している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	入居者の情報交換や共有を積極的に行っており、行き詰った案件を共有したり対応するスタッフ交替がスムーズに行えるようにしている。負の感情を受け入れ、柔軟な捉え方ができるようなサポートを心がけている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待についての研修に参加している。参加できなかったスタッフは、参加したスタッフから研修報告を受け、改めて考える機会を設けている。	/	/	/	定期的に研修会を実施し、職員は不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等について理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のミーティング・記録の時間には適切な対応を周知するほか、スタッフのアイデアを伺ったり対応の問題点を振り返ったりする場としている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	スタッフ同士でフォローし合いながら、虐待や不適切な対応にならないよう留意している。お互いに言いにくい場合は上司に相談し、指導を促す協力を依頼するようになっている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	管理者・リーダーが現場の一員として働きながら、日常的に注意を払い、点検している。また、スタッフからの報告や相談を真剣に受け止め、改善策を検討している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束防止の研修を定期的に行い、スタッフ間で周知・再確認を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現場で起こりうる可能性のある事例をあげて、話し合うなどの機会を設けている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族から「転倒しないようにベッド柵で囲ってほしい」との要望があったが、話し合いをし、身体拘束をしないケアへの理解をご家族に向けてもっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見制度は現在1名ご利用。研修の機会にも積極的に参加している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要時には情報提供するよう努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	現在は1名成年後見制度ご利用。他の方は該当する方がいらっしゃらないが、必要な場合は相談できる体制を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成、掲示しており、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	新人スタッフや経験の浅いスタッフだけに限らず、起こる可能性のある事例をミーティング等でリアルに想像したり、実際にあったスタッフの体験話を聞くなどの研修を行うことで、実践に繋げられるよう配慮している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告・ヒヤリハット報告だけでなく、起こる可能性のある事例を話し合う時間を多く持っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	安全に生活していただく為に事故防止に努め、スタッフと情報を共有・検討し、取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは作成してないが、苦情窓口は設置している。ご意見や提案などを伺った際には速やかに報告し、早めの対応を心がけている。また、言いやすい雰囲気を作っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが、些細なご意見も参考にさせていただき、よりよいグループホーム運営に役立らせていただいている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	面会や外部の方の来訪機会を大切に、ご意見をいただいた際には速やかに対策を検討し、サービス改善に役立っている。また、ご意見をいただいた場合は速やかにスタッフ間で検討することを徹底し、ご意見をいただいた方に感謝の気持ちをお伝えする事でよりよい関係づくり・グループホーム運営に役立っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	普段の生活をしている中での要望や思いを伝えられるような時間をつくったり話す機会を設けたり等している。	/	/	○	利用者からは日常会話の中や介護相談員の訪問時に要望などを聞くことができている。家族からは面会時や運営推進会議、家族会などで意見を聞くことができている。野菜作りの得意な家族より畑作業のアドバイスを受けたこともあった。管理者はケアのあり方などについて、職員とミーティングやカンファレンスで意見交換をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ケアプラン作成を一つの機会とし、ご意見やご要望が伺えるような場を設けている。また、言いにくい場合の対策としてご意見箱を玄関に設置している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入居者の状態変化が見られ、理解不足による不満や苦情につながりそうな可能性のある場合、公的な窓口があるという情報を改めて提供している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	当事業所は代表者が在中している場所から離れていることもあり、状況を気にかけてくださり、足を運んでくださることがある。その際はスタッフとの面談をしたり状況を尋ねるなどの機会をつくっていただける。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	入居者によりよい支援ができるように目標を掲げ、スタッフに伝えている。意見が言いやすい雰囲気を持っている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム 春の風

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	定期的に自己評価表を実施している。外部評価の機会がとて素晴らしい機会となっている。	/	/	/	運営推進会議で評価結果や目標達成計画を報告しているが、参加者に理解してもらえていないため、取り組みのモニターを依頼するなど今後の工夫に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	毎月カンファレンス・スタッフ会を行い、スタッフ同士の話し合いと勉強会の場となっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な項目から目標達成計画を作成し、事業所全体でアイデアを出しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進メンバーやご家族には報告しているが、出席されているのは高齢福祉課の方が殆どである。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	必要時に課題として取り上げたり、取り組みを報告するようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	災害時の避難経路は確認できているが、緊急時のライフラインが途絶えた場合のケアに不安がある。	/	/	/	年6回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。西日本豪雨の経験から災害時の備えの必要性を強く感じており、地域の方にも参加の呼びかけを行って、豪雨災害支援の取り組みに関するビデオ上映会を開催し、地域との連携をより強固にするなど、利用者等の安全確保に万全を期している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	地震・津波・火災を想定した訓練や夜間帯を想定した訓練を行うことで、入居者の安全確保ができるように練習している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検を行い、非常食も実際に検食する等して、万が一の備えに役立っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練時には地域の方や地元消防団の方に参加していただき、ご意見や助言などをいただいている。	○	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練には参加した事がないが、地域との連携を図りながら、万が一の際には非常食の提供ができるような備えをしている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	家族介護者の会を当法人ケアマネが立ち上げ、ひだまり室で定期的に開催されている。当事業所は学生さんへの情報発信や啓発活動を行うことで福祉に興味を持っていただけるようにし、福祉の担い手が育てられるよう努めている。	/	/	/	事業所で家族介護者の会を開催し、在宅で介護をしている家族の不安や困りごとの相談など、相談者との架け橋となるよう取り組んでいるが、地域の方に幅広く活用されていない感があるため、今後の取り組みに期待したい。小・中・高校の運動会に参加し地域住民と交流を深めたり、敬老会や文化祭への作品出展など、地域とのイベントを共同で行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	入居者の家族(もちろんの事、在宅で介護をされているご家族様への相談支援を「家族介護者の会」という場を設けて参加させていただいている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	地域交流スペース「ひだまり室」を併設し、誰でもご利用していただけるような場所を提供している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	小学生の施設見学交流会・中学生の職場体験・高校生のインターンシップなどの受け入れ、協力をさせていただき、福祉に興味を持っていただけるような機会になるよう努めている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントや行事には参加させていただいたり、学校関係とは連携を図っているが、地域活動での協力はまだまだ不十分である。来ていただくことのほうが多く感じられる。	/	/	○	